2025 年 12 月 No.64

JEA ニュース

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

Japan Evangelical Association

「神のご計画に従って召された人」と信じて

復活の主イエス・キリストの御名を心から賛美いたします。

このたび、日本福音同盟（JEA）の総主事として歩み始めることになりました。主の導きに従い、この責任を感謝と畏れをもって受け止めております。

振り返れば、主に召されて以来の道は、必ずしも順風満帆ではありませんでした。時に痛みを伴い、思いがけない変化の中で、自らの限界を知らされることもありました。自分の望むようには働きが進まないと感じることもありました。しかし、そうした時を通してこそ、神は新しい導きを示してくださる方であることを学ばされてきたと感じています。

今回の JEA 総主事就任も、まさにそのような不思議な導きの一つでした。私は当初、この働きを自分が担うとは考えておりませんでした。しかし、教会との関係の変化、諸先生方や理事の方々との交わりを通して、主が次の時代に何を願っておられるのか、そして私に何を委ねようとしてくださっているのかを静まりつつ祈り求める時が与えられました。

これまで私は、地方教会での牧会に生涯を捧げてまいりました。牧会の中心は、何よりも聖書の御言葉を忠実に語ることでした。講解説教を通して神のみこころを探り、共に御言葉に耳を傾けることを喜びとしてきました。また、教会ではバンドや聖歌隊をリードし、賛美が神への応答となるよう導いてきました。加えて、地域の教会や働きとの宣教協力にも尽力し、主のからだである教会の一致を求めて歩んできました。

JEA は、創立以来「一致・協力・宣教」という理念を大切にしながら、福音主義の教会・働きの間で協力しつつ宣教を推進する働きに取り組んできたように思います。今、日本の教会はかつてない変化のただ中にあります。教会や信徒の姿は多様化し、社会との関係も新たな問いを突きつけられています。次世代のリーダー育成、宣教協力の刷新、地域社会との信頼の回復など、私たちが取り組むべき課題は少なくありません。

神戸博央新総主事
WEA の総会会場で

それでも私たちは、変わらない福音を中心に据えるとき、主が教会を導き、発展させてくださると信じています。日本福音同盟の働きが「教団や教派を越えた協力の場」であり続けるために、私は対話を大切にし、現場に足を運び、皆様の声を聴きながら進めてまいります。

今、私の心に響いている御言葉は、ローマ人への手紙 8 章 28 節です。

「神を愛する人たち、すなわち神のご計画に従って召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

私たちの働きも、個々の歩みも、人の力によるのではなく、主ご自身が成し遂げてくださるものです。過去の歩みのすべてを感謝しつつ、今置かれている場所から、もう一度、主の御心を求める群れとして共に歩み出していきたいと願っています。

これまで私を支えてくださった多くの方々に心から感謝申し上げます。そしてこれからも、日本の教会が一致して福音の前進に仕えるために、どうぞお祈りとご協力を賜りますようお願い申し上げます。

主にあって。

総主事　神戸博央

目次

巻頭言 1
Bless Japan × 宣教フォーラム 2025 2
世界福音同盟 3
戦後 80 年声明とその意義 4～5
流れのほとりで / 牧師の本棚 6
JEA 青年宣教 7
岩上師退任挨拶 / 総務局から 8

Bless Japan × JEA 宣教フォーラム 2025

中西 雅裕　宣教委員長
宝塚泉キリスト教会

「日本で一番人口の多い市はどこでしょう。377 万人の横浜です。実は、ほぼ同じ数の外国籍在住者が現在日本におられるのです。彼らは私達のすぐそばにいます。そしてその中にはクリスチャンもいるのです。同じ国の人々が集まって母国語で礼拝を捧げていたり（エスニック教会）、日本人教会に出席して礼拝を捧げていたり。彼らは自分の国のことを祈るでしょうが、今自分たちの住んでいる日本のためにも祈ってくれています。これは間違いないことです。彼らのことをもっと知り、協力していく必要があるのではないでしょうか。」との趣旨で BLESS JAPAN（各国のエスニック教会のネットワーク）と JEA 宣教委員会のコラボで、9 月 22 ～ 23 日に「BLESS JAPAN x JEA 宣教フォーラム 2025」が、お茶の水クリスチャンセンターで開催されました。

「彼らは教育・生活面などの助けを必要としています。日本人教会･クリスチャンは手を差しのべることができるのです。それだけでなく、日本の教会にとっても福音宣教の上で、非常に可能性のある存在であるのです。」

エスニック教会と日本の教会とのネットワークの構築ができればと企画されたこの集会には、「日本で、母国語で礼拝を捧げている教会との宣教協力」というテーマで、JEA 各委員会や JCE7 プロジェクトなどによって 10 の分科会が開かれ、情報を共有し、ディスカッションの時が持たれました。また 16 のブースの出展があり、いろいろな働きが紹介されました。23 日の午後にはセレブレーションの時を持ち、東京基督教大学学長の篠原基章師による詩篇 22 篇 27 節からのメッセージ、各国の賛美、教会の状況の紹介、祈祷課題を出し合って共に祈る時を持ちました。この集会には、9 カ国以上 260 名の方々が集まりました。日本人教会の牧師たちも 100 名以上が参加しました。多くの出会いがあり、情報の共有の時となりました。これからの結実に期待します。

JCE7 で掲げられた御言葉「その後、私は見た。すると見よ。すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。」（黙示録 7 章 9 節）全ての国民、全ての部族、全ての民族、全ての言語からなる民が主の御前で声を合わせて賛美を、一緒に礼拝を捧げる天上の礼拝。これは私達のゴールです。そしてその雛形が今、多くの外国の方々が来られた事によって、この日本において始まっている！それを感じさせていただいた 2 日間でした。

日本の教会がこれからも、日本国内で進められているエスニック教会の働きを理解し、協力し合い、ますます宣教の実が結ばれていく御業を主から見せていただけますようにと祈りつつ。

岩上 敬人 AEA 理事
インマヌエル浦和キリスト教会

世界福音同盟（WEA）動向と総会報告

世界福音同盟（WEA）

世界福音同盟（WEA）は、世界 161 か国の教会とネットワークを有し、各国で福音同盟を形成しています。また、100 を超える国際組織と協力しながら、世界的なアイデンティティを共有し、6 億人以上の福音派クリスチャンの声を代表するプラットフォームとして機能しています。WEA は、ネットワーク形成、訓練（指導者養成など）、そして福音主義キリスト者として「一つの声」を発することを重視しています。

8 月には、2 年間空席となっていた WEA 総主事が選出され、ナザレ出身のボトラス・マンスール氏が就任することが発表されました。

また、10 月 27 日（月）から 31 日（金）まで、韓国ソウルのサラン教会において WEA 総会が開催されました。テーマは「2033 年までにすべての人に福音を」（The Gospel for Everyone by 2033）でした。今回の総会には、北米、中米・カリブ海、南米、ヨーロッパ、アフリカ、中東、アジア、中央アジアといった世界各地域の福音同盟から、福音派教団やキリスト教宣教団体の指導者たちが参加しました。日本からは日本福音同盟の水口功理事長はじめ、神戸博央新総主事、田辺寿雄国際渉外室長、岩上敬人アジア福音同盟理事らを含む 23 人が出席し、世界の動向を確認する時が与えられました。

総会期間中には WEA 議事会も開催され、参加者の中から JEA を代表して神戸師、田辺師、岩上が出席しました。JEA の投票権は神戸師が代表して行使しました。議事会では、各地域福音同盟から選出された国際評議員が紹介され、アジア福音同盟からはゴッドフリー・ヨガラジャ議長が選ばれました。その後の国際評議員による互選によって、ゴッドフリー・ヨガラジャ師が世界福音同盟の議長に選出されました。また、WEA 総主事に就任したボトラス・マンスール師の挨拶も行われました。今後こうしたネットワークを通じて、世界、特にアジアでの働きを意識した宣教の業が進んで行く事が期待されます。

早速、11 月 2 日と 9 日の主日には、WEA 信教の自由委員会の呼びかけにより、迫害下にある教会のための「国際祈祷日」（International Day of Prayer for the Persecuted Churches）が行われました。JEA も毎年これに参加しており、今年も Open Doors と世界福音同盟から提供された祈祷課題を翻訳し、JEA 加盟団体に配布するとともに、JEA ホームページでも祈りの参加を呼びかけました。

JEA と UCCK の交流

日本福音同盟（JEA）の代表団は 8 月 12 ～ 14 日に韓国教会総連合（UCCK）を訪問し、日韓教会の新たな協力が始まることを印象づける機会となりました。今回の訪問は光復 80 年（日本では戦後 80 年）を記念して行われ、UCCK 側は丁寧なもてなしで代表団を迎えてくださいました。通訳を務めた狭山のぞみ教会のハ・ソンヘ牧師の協力も大きな助けとなりました。

13 日午前には、石田敏則前理事長がソウルのイエス教聖潔教会で開かれた記念祈祷会でメッセージを取り次ぎ、教会関係者の皆さんと温かい交わりを持つことができました。同日夕方には UCCK 理事らとの会食が行われ、韓国主要教団の指導者の方々と交流する機会が与えられました。夜にはヨンセイ中央教会での記念式典に出席し、JEA の水口功理事長が挨拶し、戦後 80 年にあたっての JEA 声明を紹介しました。（この声明にはかなりの反響がありました。次ページ参照）

14 日には UCCK 事務所を訪れ、キム・ジョンヒョク代表らと面会しました。ここでは両団体の協力のあり方について協議し、キム代表から「任期中に宣教協力覚書を締結したい」との提案がなされました。訪韓後すぐに覚書の素案が送付され、JEA 側で文面調整が進められました。

9 月 3 日には UCCK 代表団 8 名が来日し、JEA 事務所を訪問しました。理事会の承認を経て、両者は宣教協力覚書に正式に調印しました。JEA からは水口理事長、石田前理事長、神戸博央総主事らが出席し、日韓教会の協力が新たな段階に入ったことが示されました。

戦後 80 年声明とその意義

児玉 智継　社会委員
JECA 布佐キリスト教会

with 戦後 80 年にあたっての JEA 声明全文

私たち日本福音同盟（以下 JEA）は、戦後 80 年を迎え、平和をつくる者として、以下のように声明します。

1.　30 年のふり返り（立ち位置の確認）

私たち JEA は、1995 年の「戦後 50 年にあたっての JEA 声明」（以下「戦後 50 年声明」）以来、戦後 60 年、戦後 70 年の節目に声明を発表してきました。

「戦後 50 年声明」では、日本の教会が、十五年戦争の間、国民儀礼・神社参拝という偶像崇拝の罪を自ら犯すとともに、近隣アジア諸国の教会に対してもそれを強要し、侵略に加担したことを神の御前に悔い改め、近隣アジア諸国への謝罪を表明し、赦しを求めました。その上で、私たちが将来の日本と世界に対する宣教の使命を新たな思いで果たすべく前進すること、また、そのために「聖書はすべて誤りなき神のことばであり、信仰と生活の唯一絶対の規範である」という信仰に立って主に再献身することを誓いました。

2005 年「戦後 60 年声明」では、第４回日本伝道会議で採択された「沖縄宣言」を踏まえ、私たちの無関心と知ろうとしない罪を悔い改めました。そして「戦争の根源である憎しみ、差別、偏見、敵対心などの罪から解き放ち、隣人愛で満たしてください。21 世紀を真に平和の世紀とするために、平和の君、歴史の主なるキリストを日々仰ぎ、今、ここでも、和解の福音を実現する者と私たちをならせてください」と祈りを合わせました。

さらに 2015 年「戦後 70 年声明」では、戦時下における日本の教会の罪の歴史とその悔い改めを次世代に伝えることを表明し、また聖書信仰に立つアジアと世界の諸教会と協力すること、諸外国との和解を妨げている課題に取り組むこと、小さくされた人々と共に立つこと、平和をつくり出すものとなることを表明しました。

2.　現状

この間、天皇の退位及び即位に際して行われる諸行事は、日本国憲法が保障する信教の自由及び政教分離原則に重大な疑義が投じられるものでした。特に大嘗祭は、新天皇が天照大神を迎え寝食を共にして、天皇霊を受けて神になるとされる宗教儀式でした。それらについて、「平成の大嘗祭」のときには、教会内にもかなり広範な反対運動・署名運動が見られましたが、「令和の大嘗祭」では一部の動きにとどまりました。この背景には、天皇制に対する受け止め方が変遷してきた面があると共に、「戦後 70 年声明」で採択された「伝える責任・受け取る責任」を十分に果たせなかったことを痛感します。

私たちは「戦後 60 年声明」において、日本復帰後も米軍基地の 75 パーセントを沖縄に押し付け続けていることなどについて、無関心であったことを告白し、悔い改めの表明をしました。しかし、その後 20 年、宣言した課題に真摯に取り組んできたとは言い難く、解決の困難さのゆえに日米安保の危険の大半を沖縄が負担し続ける現状を変えることはできませんでした。東日本大震災での福島第一原発事故では、犠牲のシステムが戦前と変わらずに継続され、構造化している現実が明らかになりながらも、未来のための抜本的改革ができていません。

集団的自衛権行使容認に関する閣議決定（2014 年）、安全保障関連法案の採決（2015 年）、共謀罪法の成立（2017 年）、安保関連三文書の改訂（2022 年）、防衛費の増額（2023 年以降）など、戦後日本の武力に拠らない平和構築が激変しています。

3.　戦後 80 年の決意

戦後 80 年を迎え、日本の教会の罪の歴史と悔い改めを確認し、祈りと行動を次世代に継承するため、私たちはここに表明します。

私たちは聖書を誤りなき神のみことばと信じる聖書信仰に立って、現代的な諸問題を神学し、キリストにある一体性を現実のものとして行くために最善を尽くします。戦争の記憶が薄れていく中で、戦時下における日本の教会の罪の歴史を学び、悔い改めを深めつつ、国が偶像礼拝の罪に陥らないように警告し、イエス・キリストだけを主とする信仰に生きます。「政教分離」の原則が守られるように為政者のためにとりなす祈りを続けます。

私たちはキリストの十字架の下に悔い改めの実が結ばれていくことを祈りつつ、次のことを願います。

（一）神を愛し、隣人を愛すること
（二）過去の罪を伝える責任を誠実に果たすこと
（三）過去に罪を犯した根本原因を聖書に基づき再確認し、信仰と生活の遊離を繰り返さないこと
（四）戦時中と類似性をもつ事態を見抜くこと
（五）世界及びアジアの諸教会とともに平和をつくること
（六）無関心でいないこと
（七）苦しむ者たちと共に苦しむこと
（八）勇気をもって声を発し、行動すること

（九）忠実に祈ること
（十）希望をもって主なる神を信じること

4.　祈り

私たちは心を合わせて祈ります。
天地万物を造られ、今も統べ治めたもう神よ。
唯一の神である主よ。

戦後 80 年を迎えたこの年に祈ります。どうか私たちが、あなたのみを神とすることができますように。あなた以外の偽りの神々を私たちが霊の目をもって見分けることができますように。

節目毎に私たちは自らを省みてまいりましたが、その歩みは誠に不十分でした。伝えること、受けとること、協力しあうこと、平和をつくること、関心を持ち続けること、ともに苦しむこと、勇気をもつこと、祈ること、希望をもってあなたを信ずることを怠りました。神を愛し、人を愛することに未だに疎い私たちです。それらに取り組む意思をお与えください。

平和の君なるイエス・キリストよ。

今、この時代に祈ります。私たち人間の犯す争い、破壊、混乱をお赦しください。主の平和が一日も早く世界の隅々にまで実現しますように。私たちを平和の器として用いてください。自己中心の罪に気づかせ、他者と共に生きる勇気を教えてください。「神のしもべ」である為政者たちのために祈り続ける忍耐力を与えてください。

聖霊なる神よ。

来る 10 年を覚えて祈ります。隣人の苦しみに無関心な私たちの現状をご覧くださり、石のような頑なな心を取り除き、人々の痛みを我が痛みとする者へと作り変えてくださいますように。そのようにして神を愛し、隣人の苦しみに無関心になることから守られるように私たちを導いてください。そして神を愛し、人々を愛し、平和をつくり、福音を証する民としての歩みを、私たちに誠実に、勇ましく、速やかに真心もって、なさしめてくださいますように。

主よ、弱き私たちを憐れんでください。アーメン。

2025 年 6 月 4 日（水）
日本福音同盟第 40 回総会　日本福音同盟理事長　水口功

2025 年 6 月に開催された日本福音同盟 40 回総会において、「戦後 80 年にあたっての JEA 声明」が採択されました。―今回、社会委員会もその草案作成に関わらせていただきました。

JEA 設立の原点には、「聖書の規範性と基本教理をないがしろにする自由主義神学との対峙、そして戦時下でイエス・キリストだけを主とする信仰告白を弾圧懐柔した天皇制・国家神道体制を標榜するナショナリズムとの対峙」という二つの軸がありました。
それゆえ、1995 年には、「戦後 50 年にあたっての JEA 声明」を発表し、第二次世界大戦時下に、皇国史観のナショナリズムに迎合して神社参拝という偶像礼拝を犯し、皇国の道に従うことを第一としてアジア諸国への侵略加害に加担したキリスト教会の罪責の悔い改めと謝罪を表明しました。以来、戦後 60 年、戦後 70 年の節目に、JEA 総会において、JEA 声明を決議してきました。

戦後80年声明でも、これまで表明してきた視座に立って、現代的な課題を考えることを大切にしました。戦後 80 年を迎え、歴史の証人たちが減り、その記憶の継承も薄れていく中で、JEA のアイデンティティを再確認する必要があると思ったからです。

戦後 80 年声明は、① 30 年のふり返り（立ち位置の確認）、②現状、③戦後 80 年の決意、④祈り、という４部構成になっています。とりわけ、「伝える責任・受け取る責任」を十分に果たせなかったことを覚えつつ、次のことを決意しました。すなわち、①私たちは聖書を誤りなき神のみことばと信じる聖書信仰に立って、現代的な諸問題を神学し、キリストにある一体性を現実のものとして行くために最善を尽くすこと、②戦争の記憶が薄れていく中で、戦時下における日本の教会の罪の歴史を学び、悔い改めを深めつつ、国が偶像礼拝の罪に陥らないように警告し、イエス・キリストだけを主とする信仰に生きること、③「政教分離」の原則が守られるように為政者のためにとりなす祈りを続けること、です。

アメリカの歴史学者キャロル・グラックは、日本における「戦後」という時代区分の長さについて、「単線性が途切れ、終わりなき円環に変容してしまったものを内包する」と指摘します。しかし、今の「戦後」を終らせてはなりません。「戦後」が「戦前」へと転換しようとするメカニズムは常に動き続けています。
私たちは創造から終末へと向かう歴史のカイロス的な時間軸の中で、過去の出来事の歴史的証言を心に刻みつつ、現在の出来事が向かう方向を正しく見定めていく必要があります。そして、「幻」（箴言 29:18）を語り続け、平和主義を呼びかけ続けていかなければならないと思います。もちろん、声明を出したからと言って、世界が変わるわけではないかもしれません。しかし私たちは、この世界に向かって、「本当にそれでよいのか？」と問い続けていかなければならないと思います。「戦後 80 にあたっての JEA 声明」は、そのキリスト者の重要な使命の一端を担うものなのです。

（児玉智継）

流れのほとりで

寺村 真弓 女性委員長 イムマヌエル総合伝道団
秦 裕香里 女性委員　日本福音キリスト教会連合

第 21 回「かたりば」報告　　寺村真弓　（女性委員長）

「宣教に生きる女性」たちの声を聴こうと始まった「かたりば」もすでに 20 回以上。これまでの尊いお祈りとお支えを心から感謝いたします。

7 月 22 日（火）の第 21 回「かたりば」は、ソプラノ歌手の西由起子さんを講師にお迎えしました。「賛美とともに生きる」のタイトルで、「どん底だった」という大学生時代、不思議なように主を信じたこと、「賛美の力」を体験されてきた歩みや星野富弘さんとの出会いなど、ご苦労も多かった西さんご自身のお証しを温かな笑顔で語ってくださいました。どのような中にあっても主を信頼し、自分の栄光のためでなく、主のために与えられた賜物を用いる謙遜なお姿に、主の前に奉仕する者の心を教えられました。

第 22 回「かたりば」報告　　秦　裕香里　（女性委員）

2025 年 11 月 11 日の「第 22 回かたりば」は、初の試みとして、対象者を教職関係の女性に限定して開催しました。テーマは「ストレスとの付き合い方：女性教職の立場から」。ご案内の段階から反響が大きく、当日は全国から 55 名の女性達がオンラインで集まり、同じ課題に向き合いました。講師のレオン蔡香さんからは、どの教職関係者にも共通するストレスやその身体症状、燃え尽き、そのためのセルフケアについて教えていただき、牧会の現場において避けられないストレスとどのようにうまく付き合いつつ主にお仕えすれば良いかについて、共に学んで考える時を持ちました。

聖書は、私たちが福音を携える「土の器」であると語っていますが、私たちはその内なる福音の素晴らしさに注目するあまり、それを運ぶ自分も鉄器になったように錯覚し、弱い土の器であることを忘れて謙遜さを失ったり、主の助けを求めないまま疲弊して壊れてしまうことがあります。福音を伝える私たちがまず、みことばから霊的に深くケアされるとともに、土の器の責任として自分の心や体にも謙遜に気を配り、長く健全な主の働きを続けていく意識が必要だと学びました。

特に女性教職者の多くは、周りが自分に持つイメージに答えるべきだという責任感が強く、自分の限界を「限界だ」と言えずに無理をすることが少なくありません。教職の働きはたしかに限界や境界を設けにくいものですが、被造物である人間として神を愛し隣人を愛する中で、愛を持って柔軟な境界を意識することも時には必要です。女性の持つ共感力が、弱さではなく主の賜物として大いに用いられ、福音の栄光が土の器を通してますます生き生きと表されていくことを願っています。

牧師の本棚

國重 潔志 神学委員長
インマヌエル福岡キリスト教会

聖地旅行に出かけられた方々は、一度は聖地を訪れるべきと言われます。聖書のみ方が、また講壇のご奉仕がさらに豊かになるからというのがその理由です。ただ、時間的・経済的余裕がありませんと、なかなか難しいところです。どちらかというと、私自身も含め、聖地に赴く機会の無いまま過ごしておられる方々が多いことかと思います。そのような方々のためにと良い本が多く出版されていますが、ここでご紹介する本もその 1 冊です。

著者のリュ・モーセ博士は宣教師ですがもともとは漢方の専門医であり、またヘブル医大で細胞生理学の修士号と薬理学の博士号を取得された方です。薬理学に通じる宣教師が実際にイスラエルで 10 年ほど過ごす中で得られた知見を、この本でシェアしておられます。

全部で 27 のトピックを取り上げていますが、その中の一部分を紹介しますと、「イエスは、なぜ、いちじくの木を呪われたのか」、「イエスは、なぜ、ゲツセマネの園で祈られたのか」、「イエスは、なぜ、最初の奇蹟にぶどう酒を選ばれたのか」、「大祭司の衣には、なぜ、ざくろが下がっているのか」、「放蕩息子は、なぜ、いなご豆を食べたのか」、「ザアカイはしゅろの木の多いエリコで、なぜいちじく桑の木に登ったのか」、「ダビデは、なぜ、ヒソプで自らを洗い清めてほしいと言ったのか」などについて、明快な説明がなされています。イスラエルに住んでいる方々には常識であっても、遠い日本の私たちには、ちょっと想像もつかないような意味が込められていたことに教えられることが多々あります。

実際に現地に行ってみて、現物を見ながらガイドの方に教えて頂けるのが一番良いのは言うまでもありません。ただ、そうした機会がなかなか得られない場合、この本は大きな助けとなります。

寺東 真也　青年委員
キリスト兄弟団　大阪教会

JEA 青年宣教

主の御名を賛美いたします。

昨年、青年委員会では抜本的に働きの再検討を行い、青年たちへの直接的な働きよりも、青年宣教従事者の為の働きに力を入れていく方向性を決議しました。また、どのように青年宣教従事者に仕える事ができるかを検討した結果、JEA のネットワークを活かし、ネットワーキングする事が重要であるという結論に至りました。教会の青年離れや働き人の減少など、課題が多くあります。それに加え、２０３０年問題という大きな課題を前にして、一番励ましになるのは、それでも神様は私たちと共におられ、主にある仲間を与えてくださっている事ではないかという事です。教団教派を超え、同じ主にある働きに召されている同労者と「友」となり、繋がっていく時、問題はあったとしても、必ず、主は勝利を与えてくださると信じるからです（Ｉ列王記１９：１４～１８）。

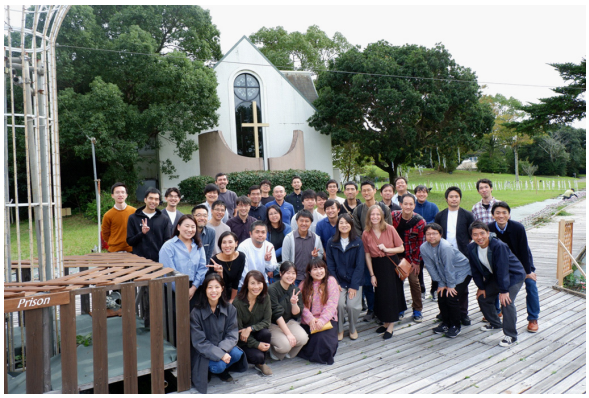
具体的な働きとして、昨年の 10 月に「青年宣教ネットワーク」と称し､つま恋リゾート彩の郷で行いました。様々な教団、団体から参加いただき、３９名の参加がありました。テーマは「友でととのう～ How to よりも、仲間との出会いを～」です。目標としては、『「ことば」として残るものより、「関係」が残る大会に』をモットーに行い、プログラムも、この目的に集中させ、グループや部屋ごとのメンバーと行うものが大半を占めました。二日目の午後には､グループ毎で掛川の町に繰り出し、与えられた仲良くなる為のミッションをこなしつつ、親交を深めました。終始、にこやかで楽しい時間が流れていたのが印象的です。

また、この集いが打ち上げ花火として終わらない為にも、与えられたネットワークがさら広げられていく為に、二ヶ月に一回の頻度で「青年宣教ネットワークオンライン」を直後から継続してきました。2024 年 11 月から初めて、2025 年 11 月まで、6 回のオンライン集会を行いました。しかし、オンラインでの交わりはどうしても希薄になりやすいので、青年宣教において関心が高いテーマを、各回に設けて集い、分かち合う時といたしました。

第一回テーマ「青年キャンプのテーマと聖句」
第二回テーマ「献身への招き」
第三回テーマ「デジタルを用いた青年宣教」
第四回テーマ「レクリエーションとキャンプ場の紹介」
第五回テーマ「青年たちの結婚の取り組み」
第六回テーマ「喜びつつ青年宣教を～安息の必要性～」

今後は､2026 年に二回目となる対面の「青年宣教ネットワーク 2026」を開催予定です。より深く、広いネットワークの構築を目指して２０２６年１０月１３日（火）から１５日（木）の二泊三日、つま恋リゾート彩の郷において開催いたします。参加費は３万５千円の予定です（昨今のインフレで変動する可能性もあります）。ぜひ、各団体において、青年宣教の担当者にあたる方にお声がけいただき、送り出してくださいますようお願い申し上げます。

また、それに先立ち、２０２６年６月３０日（火）に「青年宣教ネットワーク　リユニオン」（※リユニオン：再会の意）をオンラインで開催いたします。青年宣教ネットワークに対面で参加した方、オンラインで出会った方を中心に、まだ参加したことのない方も、一緒に再会を喜び、青年宣教ネットワーク 2026 に向けて、より親交を深める時なることを目指して行いますので、ぜひご参加ください。



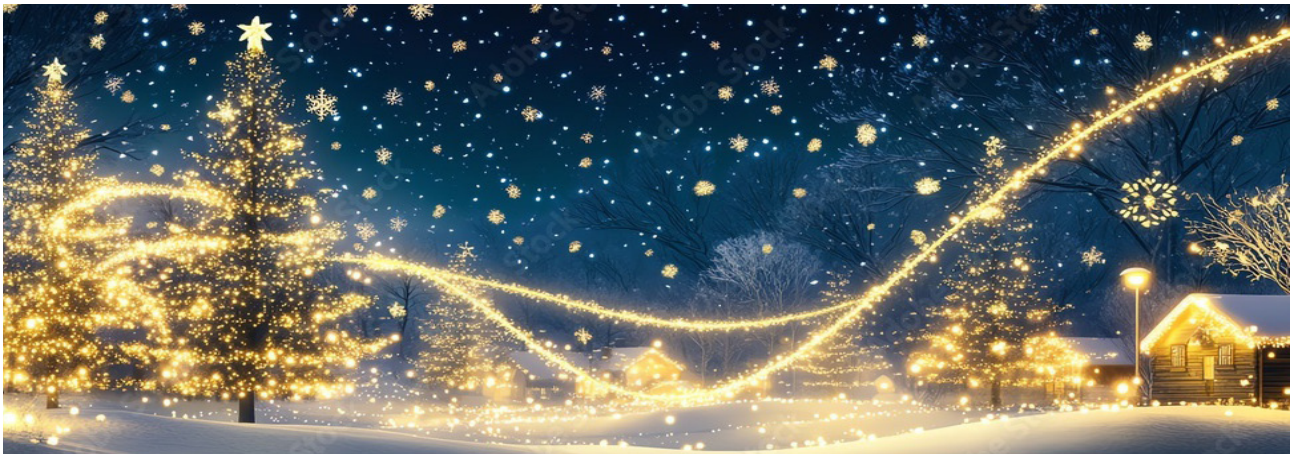
岩上敬人前総主事退任の挨拶

2019 年 4 月に品川謙一先生（日本キリスト合同教会）の後任として 6 年 5 か月の間、JEA 総主事としてご奉仕することが許されました。就任 1 年目は総主事の業務をこなすことで精いっぱいの 1 年を過ごし、いよいよ、これからと思っていた矢先に 2020 年 3 月から新型コロナウイルス感染によるパンデミックが発生しました。思えば私の総主事の任期はほぼ、コロナ禍と呼ばれた時期と重なることとなりました。過去に例を見ない予測不能な状況の中で、文書による JEA 総会、投票による理事選挙など、目の前の対応に翻弄され続けていました。日本の教会もこの期間に大きく変わりました。オンライン集会、配信礼拝、オンライン会議が広く教会全体に普及しました。その中で神学的、宣教学的課題も多く噴出しました。十分とは言えないまでも、これらの教会の課題に JEA として取り組むこととなりました。

また感染収束も見えない中で第 7 回日本伝道会議の準備が進められました。東海地区の開催地の先生方をはじめ、多くの先生方の犠牲によって、JCE7 が無事に開催することができたことは大きな恵みでした。JCE7 を機に、これまで途絶えていた韓国福音派との交わりが再開されましたし、アジア福音同盟、世界福音同盟との関係も強化されました。国際的な働きにおいて多くの進展があったことは感謝でした。

JEA 加盟の教団、教会、宣教団体、JEA 理事、専門委員会の先生方、JEA 総務局の皆さまの惜しみない協力によって、6 年半の任期を終えることができました。心から感謝申し上げます。後任の神戸博央先生がバトンを受けてくださり、これからさらに神の国、宣教協力の働きが広がっていくことを期待しながら、主の栄光を賛美しつつ退任のご挨拶とさせていただきます。

水口理事長、神戸総主事、岩上前総主事



JEA 総務局から

◆総主事の後継者問題が長引く中で JEA ニュースの方も一年ぶりの発刊ということになりました。普段から JEA のために祈り、お支えくださっている方々には大変申し訳ない事でした。
◆世界福音同盟（WEA）の 6 年ごとの総会がちょうど総主事の交代の時期と重なり、新旧の総主事で一緒に出席できたことは転換期という難しさの中でも大きな恵みでありました。
◆世界での災害、紛争などは益々厳しさを増しています。共に祈りの手を上げ続けて行きたいと願わされます。
◆ JEA へのお問い合わせ、ご要望があれば、総主事までメールをお送りくだされば幸いです。(admin@jeanet.org)。

日本福音同盟

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

JEA ニュース６４号　　発　行：日本福音同盟 (JEA)
発行者：水口　功　　編集者：神戸　博央
〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC 内
TEL：03-3295-1765　　FAX：03-3295-1933
email：admin@jeanet.org
郵便振替：00150-8-68442（口座名義：JEA)